

## 百合が原公園管理運営方針

---

札幌市 建設局 みどりの推進部



1. 公園の現状と課題.....	1
<b>1-1 百合が原公園の現況.....</b>	<b>1</b>
(1) 公園の概要.....	1
(2) 公園の位置及び立地特性.....	2
(3) 各種指定状況.....	3
(4) 空間構成.....	4
<b>1-2 利用実態.....</b>	<b>5</b>
(1) 利用状況.....	5
(2) イベント等利用状況.....	8
<b>1-3 利用者ニーズ.....</b>	<b>9</b>
(1) 現在の公園に対する評価.....	9
(2) 望むサービス・施設.....	9
<b>1-4 管理運営実態.....</b>	<b>10</b>
(1) 管理運営に関わる団体等.....	10
(2) 収支状況.....	10
2. 公園の特性.....	11
<b>2-1 主要な資源.....</b>	<b>11</b>
(1) 公園の代表的な施設.....	11
(2) その他の施設.....	12
<b>2-2.公園の基本的特性.....</b>	<b>14</b>
(1) 公園の基本機能.....	14
(2) 公園の利用特性.....	15
(3) 特に重要な特性.....	15
3. 公園のあり方と施策の方向性.....	16
<b>3-1.公園の目指す方向性.....</b>	<b>16</b>
(1) コンセプト.....	16
(2) 公園のあり方.....	16
(3) 目指す方向性.....	17
(4) ゾーン別の方向性.....	18
<b>3-2 取組の方針.....</b>	<b>19</b>
(1) 基本的機能の維持・向上.....	19
(2) 特性に応じた管理運営.....	19



# 1. 公園の現状と課題

## 1-1 百合が原公園の現況

### (1) 公園の概要

表 1.公園の概要

公園名称	百合が公園	
公園種別	総合公園	
所在地	札幌市北区百合が原公園、百合が原2丁目 百合が原 11 丁目	
面積	253,140 m <sup>2</sup>	
開園年度	昭和 58 年（1983 年）	
都市計画決定	昭和 47 年 5 月 17 日	
整備当初の設計思想	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 休息、鑑賞、散策、遊戯、運動等総合的な利用を計り、その主たる利用対象は青少年及び家族向けとして造成する。</li> <li>・ 本公園の中心施設は記念広場とし、平和の象徴として木、花、水を取り入れた一大パノラマを創出する。</li> <li>・ 大震災等による緊急避難場所として、中央に大芝生広場を造成するほか、広大な中で気持ちよく、のびのびとスポーツ遊びを楽しめる場を確保する。</li> <li>・ でき得る限り人工的な工作物を省き、自然の素材を最大限利用し、自然の復活を図る。</li> </ul> <p style="text-align: right;">（昭和 53 年 札幌市東北公園基本構想計画資料より抜粋）</p>	
主な構成要素	ガーデン・広場等	世界の百合広場、ロックガーデン、ヒースガーデン、ローズウォーク、ライラックコレクション、ビーチヘッジ、ムスカリの道、かおりの庭
	ガーデン付帯施設	サイロ、時計塔、噴水、池
	有料施設	百合が原緑のセンター温室、世界の庭園、リゾートレイン
	運動・遊戯施設	パークゴルフ場（9H）、複合遊具
	アート、碑像	3カ所（花の輪と和／ひらく花／北の森たち）
	管理施設	管理事務所
	駐車場	3カ所（100台、143台、38台、大型7台）
	その他便益施設	トイレ（7カ所）、水飲み台、あずまや、パーゴラ
公園の沿革	<p>1978(昭和 53)年 昭和天皇御在位 50 周年事業として採択。</p> <p>1979(昭和 54)年 同事業の記念広場（現在の世界の百合広場）が北海道大学農学部による「東北公園基本構想」に基づき造成開始。</p> <p>1981(昭和 56)年 管理事務所完成。</p> <p>1983(昭和 58)年 公園名を「東北公園」から「百合が原公園」と改称し、供用開始。</p> <p>1986(昭和 61)年 全国都市緑化フェア『'86 さっぽろ花と緑の博覧会』開催。温室、世界の庭園、リゾートレイン設置。</p> <p>1987(昭和 62)年 都市緑化植物園（ロックガーデン）完成。造成工事終了。</p> <p>2001～2002(平成 13～14)年 大温室改修</p> <p>2002(平成 14)年 『第 18 回都市公園コンクール』管理運営部門で日本公園緑地協会会長賞受賞</p> <p>2006(平成 18)年 ボランティア（宿根草花壇管理クローバー）活動開始。</p> <p>2007(平成 19)年 ボランティア（温室植物管理ミモザ、バラ花壇管理ローズヒップ）活動開始。</p> <p>2012(平成 24)年 ガイドボランティア活動開始。</p>	

## (2) 公園の位置及び立地特性

百合が原公園は、札幌市中心部より北に約8kmの位置にある北区最大の総合公園で、総面積は25.4haとなっている。

敷地の西側は、各種事業所や住宅地が混在する市街地に接し、東側は旧琴似川を挟んで農地（市街化調整区域）につながっている。

交通アクセスとしては、JR 学園都市線百合が原駅から徒歩で7分程度、また地下鉄東豊線栄町駅からバスで15分ほどの距離にあり、郊外に位置する公園ではあるが交通立地的には恵まれた状況となっている。



図 1.公園の位置

### (3) 各種指定状況

#### ①用途地域

百合が原公園に接する西側一帯は、都市計画法における準工業地域に指定されている。さらに同法の特別用途地区の第二種職住共存地区にも指定され、工業施設と住宅地との共存を図り、市街地環境の秩序の維持を目指す区域となっている。

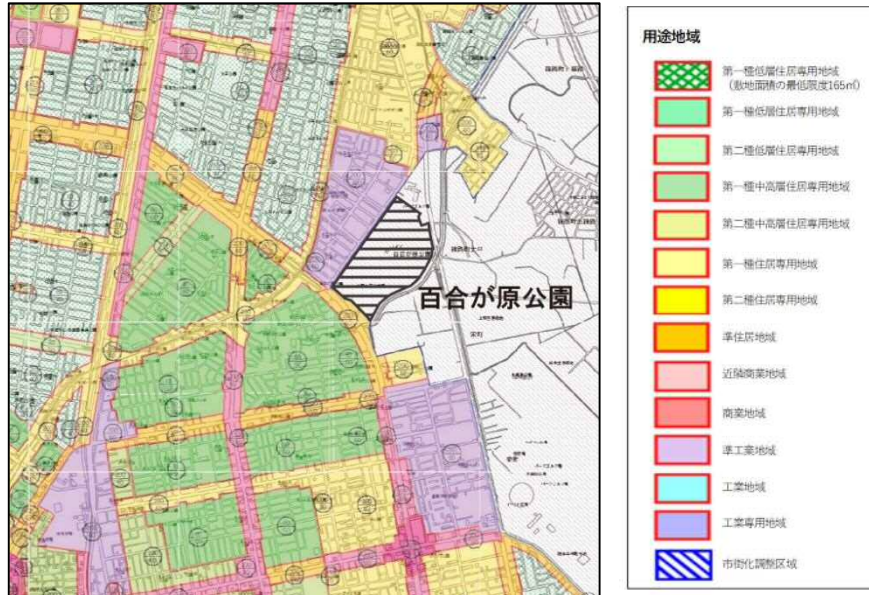


図 2.用途地域 (出典) 札幌市「札幌市地図情報サービス」

#### ②緑保全創出地域

百合が原公園は、一定の緑化等の確保を図り、緑豊かな都市環境の創出することを目指す「札幌市緑の保全と創出に関する条例」(平成13年3月制定)における里地地域に指定されている。

#### ③その他規制

百合が原公園の東側約700mには丘珠空港があり、この場所が空港の侵入区域内に入るため、航空法により建築物の高さ制限等の土地利用上の制限を受けている。

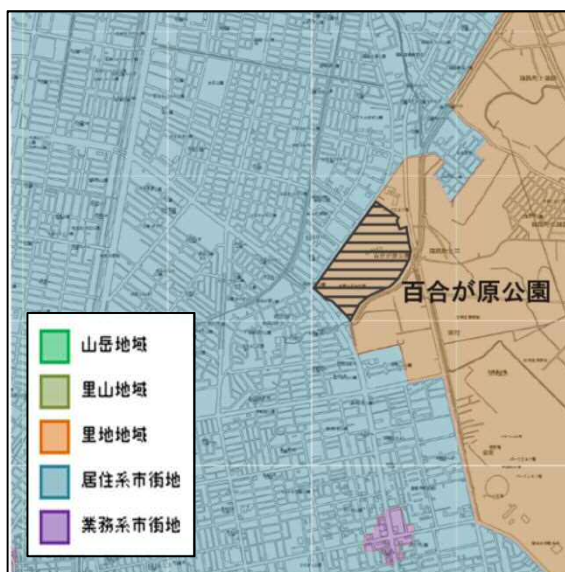


図 3.緑保全創出地域

(出典)札幌市「札幌市地図情報サービス」



図 4.航空進行区域

(出典)札幌市「札幌市地図情報サービス」

#### (4) 空間構成

航空写真から百合が原公園の空間構成をみると、樹林地が全体の36%を占め、次に花壇・花畑エリア(21%)となっている。

花壇・花畑は、公園敷地の北東側と南西側にそれぞれ3haもの広大な敷地に配置され、様々なタイプのガーデンや多種多様な植物が植えられている。

このほか有料エリアの「世界の庭園」も2ha近い面積を持ち、これら広大な花壇や庭園の存在が、百合が原公園の大きな特性となっている。

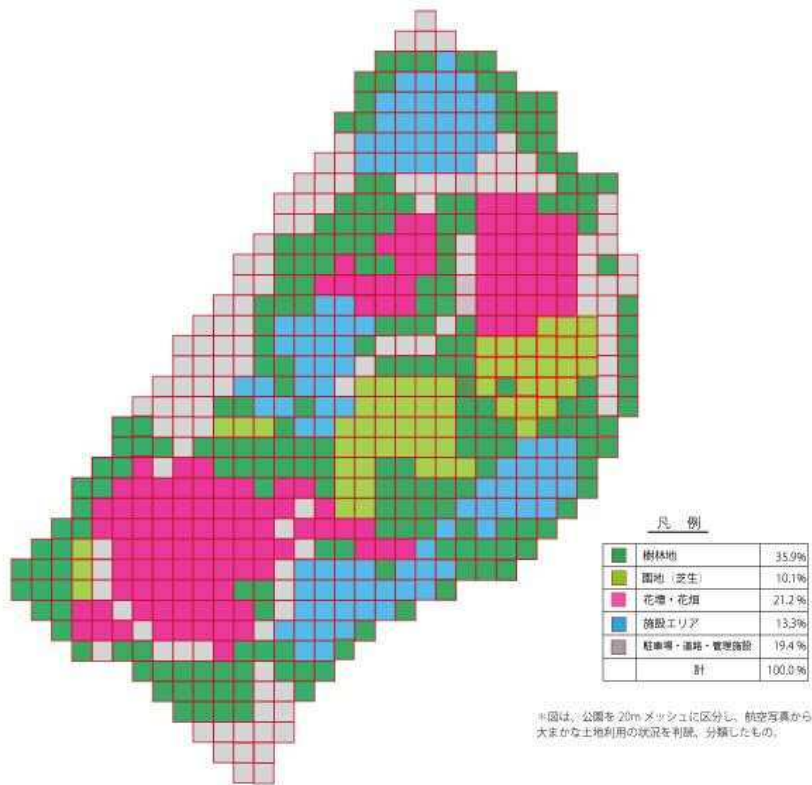


図 5.百合が原公園の空間構成



## 1-2 利用実態

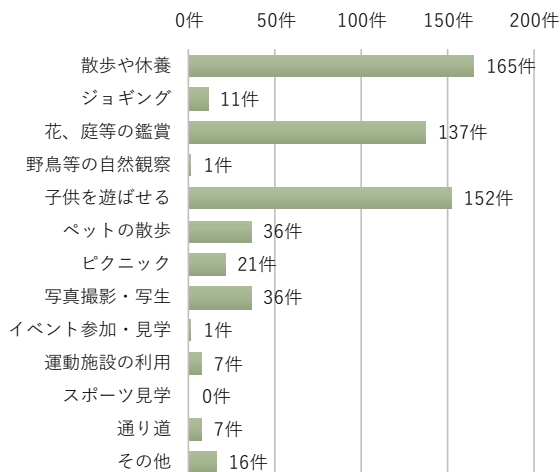
### (1) 利用状況

百合が原公園の利用実態について、令和元年9月～10月に行ったアンケート調査結果から、その特性等を以下に示す。

#### ① 今回の公園の利用目的（複数選択）（n=323）

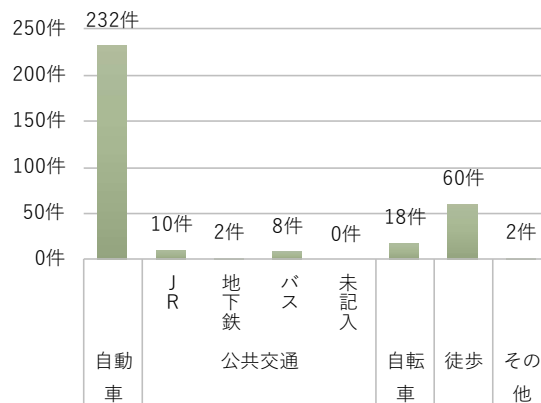
公園の利用目的については、「散歩や休養」が最も多く次いで「子供を遊ばせる」「花、庭等の鑑賞」である。

また「ペットの散歩」と同数に「写真撮影・写生」があり、「花・庭園の鑑賞」など公園内の景観を目的とした利用が特徴的である。



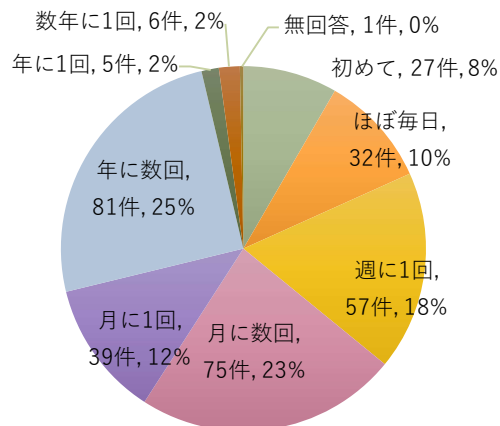
#### ②交通手段（複数選択）（n=323）

回答者の交通手段は自動車が顕著に多く 232件、次いで「徒歩」となっている。



#### ③利用頻度（n=323）

利用頻度は、「月に数回」が最も多く、毎日来園する回答者も10%いた。初めての来園者は8%と、年に1回、数年に1回の頻度の回答者の割合よりも多かった。

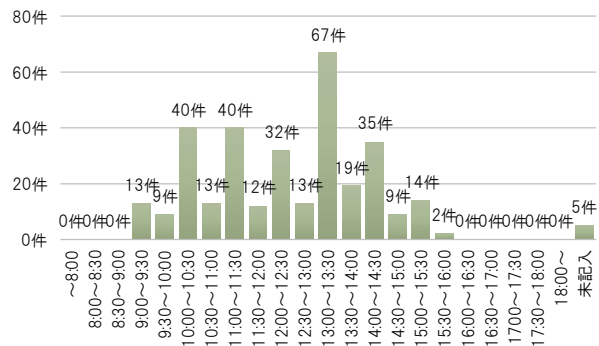


④利用した時間 (n=323)

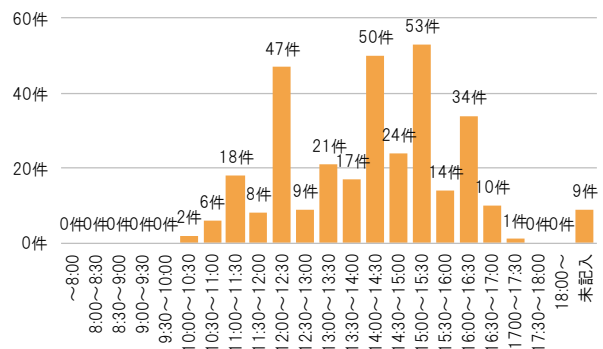
来園時間は、13:00~13:30 に来園する回答者が最も多かった。午後はこの後14:00~14:30 に来園が多いが、その他時間帯の来園は少なかった。午前中は、11:00~11:30の40件をピークに、10:00~12:00 にわたってコンスタントに来園がある。

退園時刻は、午前は 12:00~12:30、午後は 15:00~15:30 が最も多かった。滞在時間は、2.5 時間を越える利用者は少なかった。

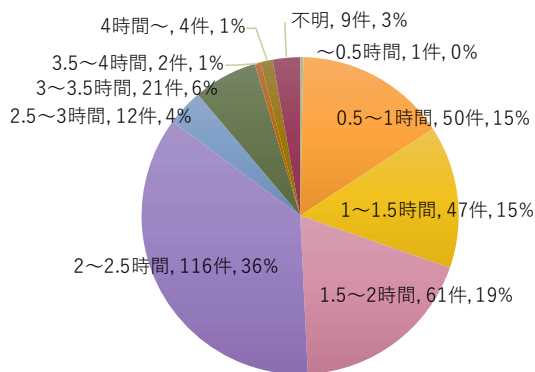
来園時刻



退園時刻(予定含む)

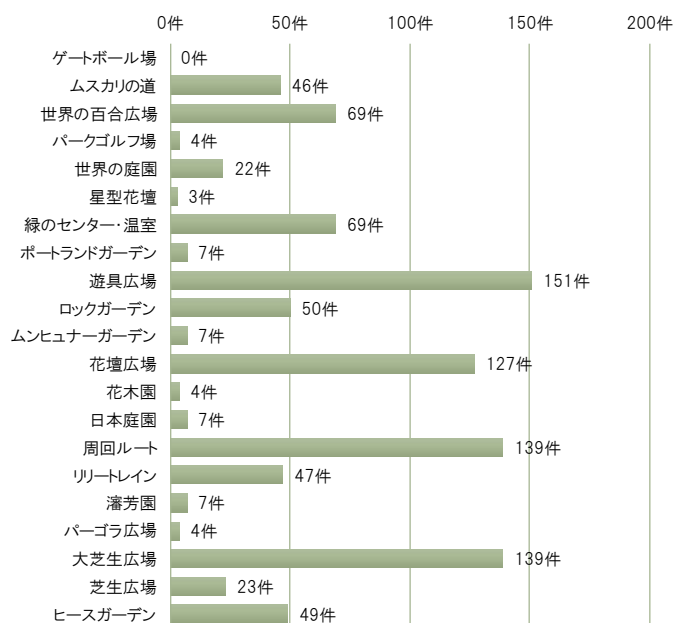


滞在時間



⑤百合が原公園の好きな場所やよく行く場所 (複数選択) (n=323)

百合が原公園内で好きな場所、よく行く場所は広く分散している。もっとも多いのが「遊具広場」で回答者の40%以上が好きな場所・よく行く場所としてあげている。その他、「花壇広場」「大芝生広場」「周回ルート」が挙げられた。



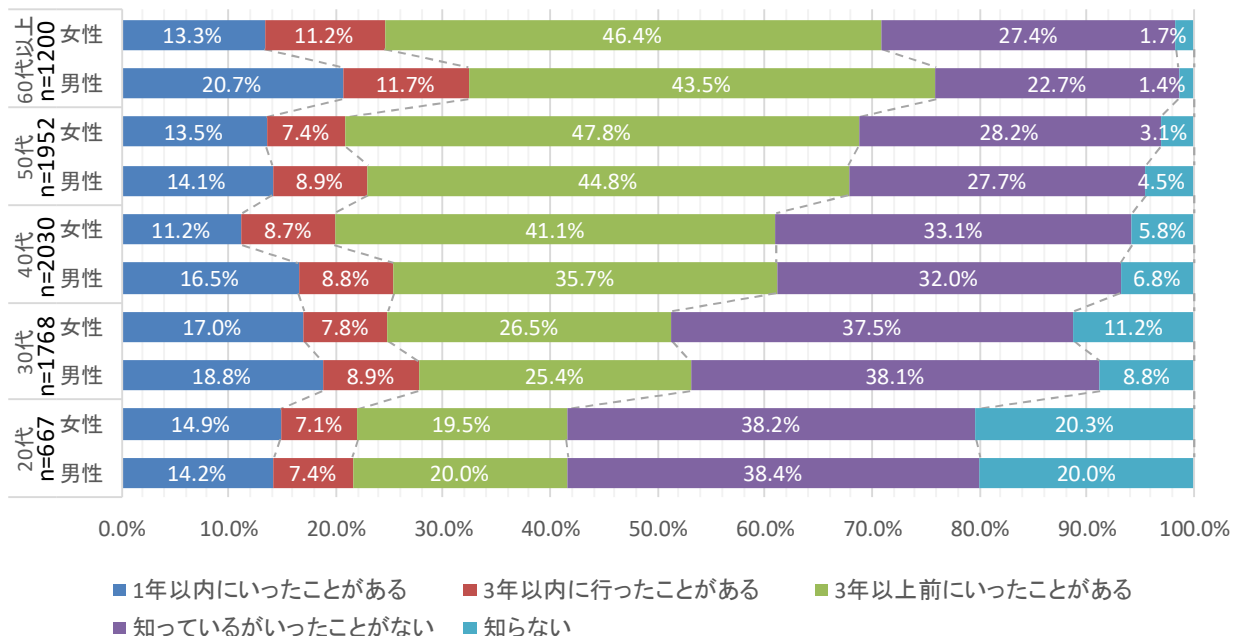
⑥市民認知度及び利用者層（平成 28 年度 web アンケート調査）

市民認知度は札幌市の主要 15 公園中 5 番目の認知度で、明治期より市民に利用されている大通公園、中島公園、円山公園や、イサムノグチの設計により整備されたモエレ沼公園に次ぐ認知度となっている。

年代・性別毎にみると、百合が原公園に「1 年以内に行ったことがある人」の割合は 60 代以上男性の 20.7%が最も多く、次いで 30 代男性（18.8%）、30 代女性（17.0%）となり、20 代男女の認知度が比較的低いものの、30 代の子育て世代から 60 代以上の高齢者層まで幅広く利用されていることがわかる。

また、世界各国の庭園が鑑賞できる「世界の庭園」の存在や、万国共通の多様な花の景観を提供していること等から、近年インバウンド利用も多く見受けられる。

	認知度(%)	順位
大通公園	99.7	1
中島公園	99.4	2
円山公園	99.4	3
モエレ沼公園	98.3	4
<b>百合が原公園</b>	<b>92.9</b>	<b>5</b>
農試公園	83.0	9
手稲稲積公園	78.5	11
五天山公園	44.1	15



(2) イベント等利用状況

百合が原公園で行われている年間の主なイベントは以下のとおりである。

表 2.主なイベントの実施概要(令和元年度)

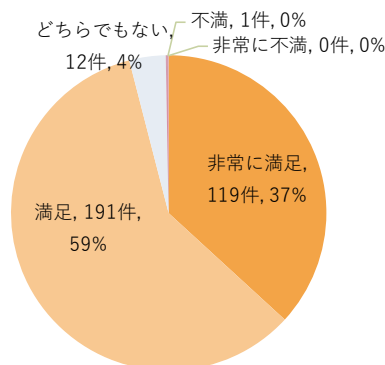
<p>冬のまちにスノーキャンドルの灯りをともそう</p>	<p>冬の公園を利用して、冬の災害について考え、地域のコミュニケーションを深める目的で市内各所開催される百合が原では、冒険あそび、スノーキャンドル作りなど</p>	
<p>プレーパーク</p>	<p>市民団体との共催で「子供たちのやってみたい」を表現していく遊び場で年数回、開催されている。</p>	
<p>ぽっぴいフェスティバル</p>	<p>公園全体として、北区との共催で秋に開催される地元野菜の詰め放題、手作りクッキーやパンの販売のほか各種団体による音楽発表会、ミニブーケ作りなどのイベントがある</p>	
<p>オリエンテーリング</p>	<p>花にまつわるクイズをしながらの鑑賞会で、毎年、春、夏、秋の3回開催される</p>	
<p>展示会・講習会・植物、園芸資材販売</p>	<p>百合が原緑のセンター温室で春4月から年明け3月まで、20数回の展示会が開催される。(セントポーリア、サルビア、ツバキ、ダリア、洋ラン等) 園芸講習会は、年間90回程度開催。</p> <p>ガーデンショップで草花や野菜、苗、鉢物、ガーデンファニチャー等を販売</p>	 

(出典) 札幌市公園緑化協会ホームページより(要約)

### 1-3 利用者ニーズ

#### (1) 現在の公園に対する評価

対面式調査によりポジティブ回答に偏る反応バイアスを考慮し「非常に満足」と答えた回答者を「満足した」とすると、百合ヶ丘公園の満足度は「非常に満足」が37%と「満足」59%を下回っていた。「非常に満足」と答えなかった理由を解析することで満足度向上につながると考えられる。

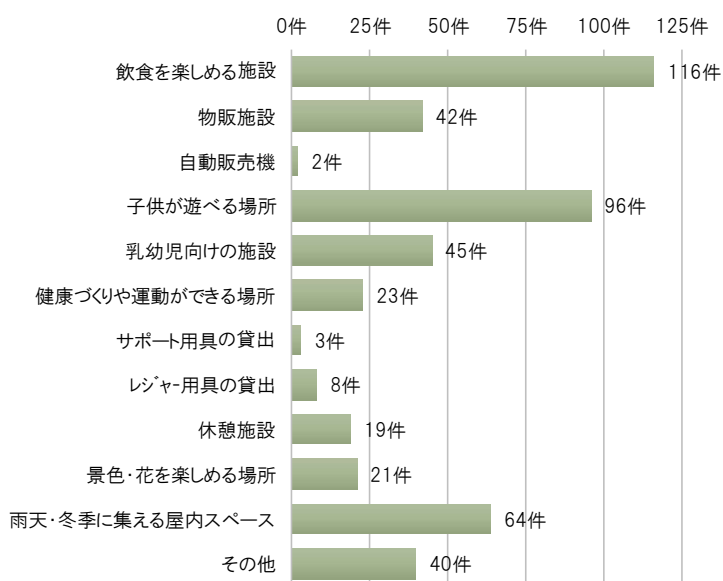


#### (2) 望むサービス・施設

回答者の求める施設・サービスで最も多かったのは、「飲食を楽しめる施設」次いで「子どもの遊べる場所」だった。

そのほか、「雨天・冬季に集える屋内スペース」「乳児向けの施設」への要望があった。来園目的が「散歩」に次いで、「子どもを遊ばせる」が多かったが、現在の園内施設に加え、さらに遊び場や小さい子どもに対応できる施設が求められている。

「その他」の中の意見は、ほとんどが現状で十分との回答だったが、ドッグラン7件、花・樹木の充実6件、トイレ2件などの具体的な要望も上がっていた。



公園利用目的で最も多かった「散歩や休養(51%)」と答えた回答者の要望をみると、「飲食を楽しめる施設」が最も多く、次いで「雨天・冬季に集える屋内スペース」「物販施設」となっている。利用目的「子どもを遊ばせる(47%)」のも多かったが、この目的で来園した人は「子どもが遊べる場所」の声が顕著に多く、ついで「飲食を楽しませる施設」「乳児向けの施設」となっていた。

クロス集計:「公園の利用目的」別の「望ましい施設やサービス」

望ましい施設やサービス	利用目的												計	
	散歩や休養	ジョギング	花、庭等の鑑賞	野鳥等の自然観察	子どもを遊ばせる	ペットの散歩	ピクニック	写真撮影・写生	イベント参加見学	運動施設の利用	スポーツ見学	通り道		その他
飲食を楽しめる施設	65件	2件	55件	1件	56件	13件	13件	13件	1件	3件	0件	2件	4件	228件
物販施設	21件	2件	18件	1件	21件	3件	2件	4件	1件	2件	0件	1件	4件	80件
自動販売機	2件	0件	1件	0件	0件	1件	0件	1件	0件	1件	0件	0件	0件	6件
子どもが遊べる場所	24件	0件	27件	0件	92件	3件	15件	1件	0件	1件	0件	2件	3件	168件
乳幼児向けの施設	16件	0件	13件	0件	45件	2件	9件	0件	0件	1件	0件	1件	1件	88件
健康づくりや運動ができる場所	19件	4件	8件	1件	6件	2件	4件	2件	1件	2件	0件	0件	1件	50件
サポート用具の貸出	1件	0件	0件	0件	3件	1件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	5件
レジャー用具の貸出	2件	0件	0件	0件	6件	0件	2件	1件	0件	0件	0件	0件	2件	13件
休憩施設	16件	1件	9件	0件	5件	2件	0件	1件	0件	0件	0件	0件	0件	34件
景色・花を楽しめる場所	17件	0件	15件	0件	4件	3件	0件	4件	0件	2件	0件	0件	1件	46件
雨天・冬季に集える屋内スペース	29件	1件	23件	0件	45件	5件	8件	2件	0件	1件	0件	3件	1件	118件
その他	23件	0件	22件	0件	5件	11件	0件	8件	0件	1件	0件	1件	3件	74件
計	235件	10件	191件	3件	288件	46件	53件	37件	3件	14件	0件	10件	20件	910件

## 1-4 管理運営実態

### (1) 管理運営に関わる団体等

#### ●指定管理者

公益財団法人札幌市公園緑化協会

#### ●ボランティア団体

- ・ミモザ（温室の管理）
- ・クローバー（園内の宿根草の管理）
- ・ローズヒップ（バラの管理）
- ・ガイド（公園の歴史や見ごろの花の案内）  
→ 全体で43人（令和元年度）

#### ●その他

上記ボランティアの有志が中心となり、太平百合が原連合町内会との協働により、JR百合が原駅前の花壇管理を行っている。

### (2) 収支状況

表 3.H30 収支状況

項目	H30 計画	H30 決算	差
収入	146,371	151,272	4,901
指定管理料収入	140,887	141,514	627
指定管理費	127,531	130,453	2,922
利用料金	13,356	11,012	▲ 2,344
その他	0	49	49
自主事業収入	5,484	9,758	4,274
支出	146,371	145,476	▲ 895
指定管理業務支出	145,539	138,638	▲ 6,901
自主事業支出	832	6,838	6,006
収入－支出	0	5,796	5,796
利益還元	0	0	0
法人税等	0	497	497
純利益	0	5,299	5,299




（出典）札幌市「指定管理者評価シート」

## 2. 公園の特性




### 2-1 主要な資源

#### (1) 公園の代表的な施設

##### <屋内施設>

名称	概要	写真
緑のセンター温室	百合が原緑のセンターのメイン施設。大・中・小の3温室にわかれている。 温室では、1年を通して様々な草花、花木などを展示している。大温室に地植えされている花木以外、ほぼすべての植物は鉢植えで栽培し、見頃を迎えたものに随時入れ替えている。 温室内では常時、数10種の花を見ることができる。 展示会や植物に関する講習会・ガーデニング教室などの花を楽しむ催しを開催し、緑の相談コーナーも週2回(4月下旬～11月上旬)実施している。授乳、オムツ替えスペースもある。	
ガーデンショップ	ガーデンショップは、緑のセンターに向かって右側に隣接した外店舗と小温室横の内店舗で営業している。 通年営業 ※外店舗は4月下旬～11月上旬 営業時間 9時～17時(冬季は16時まで)	
レストラン百合が原	着席して食事ができるスペースの他、テイクアウトコーナーがある。席数は63席で、車いすも利用可能。 幼児用のいすも用意している。 窓からの景色は緑がいっぱい、リリートレインのホーム越しには芝生広場を展望できる。 授乳、オムツ替え、キッズスペースもある。	




##### <庭園・広場等>

名称	概要	写真
世界の百合広場	原種と園芸品種のユリ、約100種類を栽培。開花期は6月上旬から9月上旬まで、ピークは7月中旬頃。 エリア内にあるふじ棚は、6月上～中旬頃が見ごろ。	
世界の庭園	札幌市の姉妹都市、アメリカ合衆国オレゴン州ポートランド市、ドイツバイエルン州ミュンヘン市、中国遼寧省瀋陽市の協力で作られたポートランドガーデン、ムンヘナーガルテン、瀋陽園のほか、日本庭園がある。 エリア内には、国内外の約30種類をコレクションしたあじさい園、耐陰性宿根草中心のボーダーガーデンの他、「ヒマラヤの青いケシ」も見られる。	
ロックガーデン、ヒースガーデン	約600種類の国内外の高山植物、極地植物、山草類による装飾花壇。隣には、エリカ、カルーナなどの低性花木によるヒースガーデンがある。	

ローズウォーク	個性豊かなオールドローズ、イングリッシュローズの散歩道。見頃は6月下旬から7月上旬頃。	
ライラックコレクション	約50種類の個性的なライラックをコレクションしている。ライラックウォークは、公園西側の約650mの並木道。	
ビーチヘッジ	西洋ブナの生け垣に囲まれた宿根草ボーダーガーデン	
ムスカリの道	5月中旬、青紫のムスカリのじゅうたんと色鮮やかなチューリップが、札幌に初夏の到来を告げます。	
花木園	公園の正面入り口を入ったパーゴラ広場周辺には、芝生を包むように花木が植栽されている他、札幌の気候にあった宿根草を中心にしたボーダーガーデンも作られている。	
その他	・かおりの庭 ・宿根草園 ・ダリア園 ・バラ花壇	

(出典) 札幌市公園緑化協会ホームページより (要約)

## (2) その他の施設

名称	概要	写真
サイロ展望台とモニュメント	もともとあった牧場が百合が原公園に生まれ変わる際、この土地が酪農地帯であった軌跡として、サイロが保存されることになった。 '86 さっぽろ花と緑の博覧会で展望台として生まれ変わり、360度の展望を楽しめる施設になった。 '86 さっぽろ花と緑の博覧会の会場に設置されたモニュメントが4基、記念に残されている。	
リリートレイン	'86 さっぽろ花と緑の博覧会開催時に開業 公園一周約1.2kmを約12分かけてのんびりと回る。 春から秋まで沿線を花で彩る。	
遊具	'86 さっぽろ花と緑の博覧会で、「北方圏遊具の広場」として整備された子どもたちに大人気の広場。その後、2017(平成29)年度にリニューアルされ、大型複合遊具、ブランコ、ターザンロープ等が新設された。	
ゲートボール場	公式サイズのコートが、2面ある。	
パークゴルフ場	9ホール、パー33 利用期間：4月下旬～11月上旬	

(出典) 札幌市公園緑化協会ホームページより (要約)





## 2-2.公園の基本的特性

百合が原公園の基本的特性を「公園の機能」と「公園の利用特性」の2つの観点から整理し、考察した。

### (1) 公園の基本機能

公園の基本的機能を「環境保全」「都市景観」「運動レクリエーション」「コミュニティ」「集客」の5つの機能に分類し、評価した。百合が原公園は、昭和天皇陛下御在位50周年事業の記念広場として世界の百合広場が造成され、リリートレイン、ロックガーデン、花壇や温室など他公園にはない固有のランドマークを有している。また、この花壇の手入れやガイドなどでは、市民と協働しコミュニティ形成の核となる貴重な資源となっている。

表 4.基本的機能の評価

公園の機能	特性評価 低1~4高	概 略
環境保全	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>●緑被率は71.2%、樹林樹木と草地が大半を占める。</li> <li>●噴水、池といった水資源を有する。</li> </ul>
都市景観	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>●世界の百合広場園、ロックガーデンなどの各種花壇のほか、サイロ展望台やリリートレインといった固有のランドマークを保有</li> <li>●百合広場の池などの水景を景観要素として有する。</li> <li>●多彩な花壇などの景観を活かし、写真撮影等の利用頻度が高い。</li> </ul>
運動レクリエーション	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>●バスケットコート、パークゴルフ場など、市民の健康・スポーツ活動を支えるストックの存在</li> <li>●レクリエーション施設としてのリリートレインの存在</li> </ul>
コミュニティ	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>●温室管理やバラの手入れ、花壇管理、公園ガイドといった、公園に関わる市民団体の存在</li> <li>●屋内施設（温室）を利用した緑の講習会・展示会、北区役所と連携した地域のお祭りなど、市民団体等の共催による自主事業イベントの実施数が多い。</li> </ul>
集客機能	2	<p>【広域的な集客交流の場】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●市中心部から距離があり、駐車場台数も多くはない。</li> </ul> <p>【札幌のシンボル性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●昭和天皇陛下御在位50周年事業の記念広場として世界の百合広場が造成されたのち、公園として整備され、公園を中心として地域が発展してきた歴史を持つ。</li> </ul>

## (2) 公園の利用特性

公園利用の側面から百合が原公園の特性を評価すると、散歩や休養、花や庭の鑑賞、家族で週末や子どもの遊びを主目的とした利用の割合がほとんど同じ高い割合で利用されている。

広い広場や遊具施設、ランドマークとなっているリリートレインなど子どもがのびのび過ごせ、家族連れ、子どもがいない世代でも、花や庭園等を鑑賞しながらの散歩や休養といった多様な利用がされていた。

表 5.公園利用特性の評価

利用特性	特性評価 低1~3高	利用	今後の利用
スポーツ	1		→
健康増進	3	●近隣住民が「毎日」利用する割合は低い。 ●公園を周遊するコースのジョギング等利用	→
家族のふれあい (子どもの遊び)	3	●週末等に家族や子ども連れのお出かけ先として利用されている。	↗
自然とのふれあい 休息	3	●季節ごとに、見ごろの花を鑑賞する目的で利用されている。	↗
観光 イベント利用	3	●現在の観光利用は少ない。 ※設置経緯や、季節の花やリリートレインなど資源有	↗

特性評価の数字：利用目的の割合や来訪頻度と利用交通機関、要望や自由意見などから、他の公園との比較等により、その利用度の高さを3段階（3が最も高い）で評価した。

「今後の利用」の矢印：利用特性の今後の変化について、今後の伸びる可能性を ↗ で表示した。

## (3) 特に重要な特性

- 天皇陛下御在位50周年事業や'86花博を契機に成立した世界のユリ広場等の各種花壇による**フラワーパークとしての性質**。
- **コミュニティの拠点**となりうる市民活動や各種イベントの開催。
- 緑のセンター、ガーデンショップ等の、**みどりの普及啓発**の場。
- リリートレインや充実した遊び場等の、**子どもを含む家族のための空間**。

### 3. 公園のあり方と施策の方向性

#### 3-1.公園の目指す方向性

##### (1) コンセプト

**花と緑の“活動”と“発信”の拠点となるフラワーパーク**

##### (2) 公園のあり方

昭和天皇在位 50 周年記念事業の一環として設置された記念公園であり、その記念的な役割とともに、本地域一帯の都市環境の改善を図る貴重な緑のオープンスペース、災害時の避難場所としての役割を持つ。

記念的な役割については、当初からユリを主体とするフラワーパークが構想され、その後、「さっぽろ花と緑の博覧会」（全国都市緑化フェア）の会場となり、その成功を機に札幌を代表する公園のひとつとして、その名が知られることとなった。博覧会により整備された温室、各種花壇、リリートレイ等の特徴的な施設は、その多くが現在まで引き継がれており、公園の特性を象徴する施設となっている。

今後も、緑のセンターで各種講習会・展示会による普及啓発の場としての機能を発揮するとともに、花の管理等のボランティア活動等を推進し、札幌市を代表するフラワーパークとして花と緑の活動と発信を続けていく。



(写真. '86 花と緑の博覧会の様子)

### (3) 目指す方向性

#### ①フラワーパークとしての魅力的な空間の提供

昭和天皇在位 50 周年記念事業及びそれに続く花博の歴史を踏まえると、これまでにつくられてきた花と緑いっぱいのフラワーパークのイメージの強化を図ることが重要であるため、市民との協働により、常に良好な花景観を利用者に提供する。

#### ②都市緑化植物園※としての普及啓発の場

園内に設置されている「百合が原公園緑のセンター」は、規模が大きく通年で利用できる施設であり、花と緑の普及啓発のための重要な役割を担う施設である。今後も、主に花卉をテーマとする普及啓発施設としての機能強化を図る一方、同様の普及啓発施設を持つ豊平公園（樹木）、平岡樹芸センター（庭園技術）とも連携し、札幌市民の緑化に関する意識の高揚を図る。

※都市緑化植物園…都市住民の緑化意識の高揚や植栽知識の普及等を目的として整備された、緑化植物見本園や緑化相談等が可能な施設のこと。国により、昭和 50 年に制度化されて以降、全国で 96 か所整備されており、札幌市では百合が原公園、豊平公園、平岡樹芸センターの 3 か所が設置されている。

#### ③花と緑のコミュニティ拠点

花と緑の管理作業は膨大であり、魅力的なフラワーパークの維持・向上を図るには、花と緑に関心を持つ多くの市民の人たちの協力が不可欠である。百合が原公園ではすでに多くのボランティアの人たちがイベントや緑化活動に協力しており、地域における花と緑のコミュニティの形成がみられる。今後もこのような市民との協働の取組を発展させて、花と緑のコミュニティ拠点の機能を高めていく。

#### ④多様な世代の公園利用の促進

百合が原公園は、その特性から講習会、展示会等の参加者の多くは、高齢者となっているが、利用者アンケートの結果では、子供づれのファミリー層が多く、多様な世代に利用されていることがわかる。ガーデンショップ、緑のセンターの利用やリリートレイン、遊具広場等の利用等の多様な世代のニーズに応じたサービスの提供を推進する。

#### (4) ゾーン別の方向性

##### 【エントランスゾーン】

公園のエントランスとしてふさわしいしつらえを維持し、利用者の利便性や安全な空間として来園者を迎え入れるエリアとする。

##### 【アクティブゾーン】

鑑賞等の利用が主な百合が原公園の中で、数少ない動的な空間。また、子供の利用がメインの遊戯広場と、高齢者の利用が多いパークゴルフ場、ゲートボール場が隣接することから、安全・安心を第一にこうしたアクティビティを受入れるエリアとする。

##### 【フラワーゾーン】

公園の特性を表す象徴的な空間であり、天皇陛下御在位 50 周年事業として整備された世界のユリ広場や都市緑化植物園として整備されたロックガーデン等の各種花壇や温室、ガーデンショップ、リリートレイン駅舎等の特徴的な施設も含むエリア。それぞれの特徴や景観を踏まえた多様な空間を提供するとともに、ボランティア活動等の市民協働による維持管理をはじめとした、多様な主体との連携を推進するエリアとする。

##### 【芝生ゾーン】

公園を象徴するフラワーゾーンと庭園ゾーンに囲まれた大芝生広場では、休息、ピクニックや軽運動などに利用されている。花のオリンピック広場跡地の芝生広場との機能分担も意識しながら、多様な活動を受入れるエリアとする。

##### 【庭園ゾーン】

花と緑の博覧会で整備された世界の庭園は、姉妹都市の庭園が整備されており、エリアごとに異なる空間が展開されており、世界の庭園文化を発信するエリアとする。

##### 【樹林・管理ゾーン】

展示用植物の養生や、公園の基本的な機能としての樹林地等は、特徴的な花や施設等の特性をより発揮させるための下支えとなるエリアとする。



図 7.ゾーニング図

## 3-2 取組の方針

### (1) 基本的機能の維持・向上

#### ①施設の維持管理

現状備えている施設については、利用者の安全安心を第一に札幌市長寿命化計画に基づく適切な修繕・補修等を行い、その機能を維持することを基本とするが、利用の多さ・少なさや利用者ニーズ、公園の特性等を考慮し、必要に応じて部分的な機能の見直しを図る。

#### ②多様な利用者を受入れる公園づくり

さまざまな公園利用者を受入れる公園とするため、出入口、園路、駐車場、トイレ等のバリアフリー化を進めるとともに、外国人観光客等の来訪者にも対応するため、外国人等の利用者の多さなどを意識し、トイレの洋式化、ピクトグラム等を用いたサインの整備等ユニバーサルデザインを取り入れた整備を検討する。

#### ③樹木・植物の維持管理

樹木の持つ機能、景観や生態系にとって重要な樹木を保全するとともに、利用者の安全安心や特徴的な施設に支障となる樹木等については、定期的に点検を行い、間伐や剪定等の適正な処置を検討・実施する。

#### ④防災

札幌市地域防災計画に基づき一時避難場所・指定緊急避難場所・広域避難場所としての機能を発揮するほか、有事の際の対応等を管理者で情報共有を行い、災害時の適切な運営に努める。

### (2) 特性に応じた管理運営

#### ①フラワーパークの推進

公園を代表する特性であるフラワーパークとしての性格をより強めるため、利用者からの要望や、管理上の課題等を管理に携わる人と共有し、常により良い景観を提供する。特に、公園名の由来にもなっているユリについては、約100種類の世界のユリを鑑賞することができ、今後もこうした百合が原公園固有の景観を維持していくために、調査・研究・観察等のきめ細かな管理を行う。

また、ホームページ等を活用し、公園の魅力やイベント情報を積極的に発信し、新たな利用者の獲得に努める。



(写真:世界のユリ広場)

## ②多様な主体による管理運営

現状の花壇管理等のボランティア活動をより一層支援するとともに、ボランティア団体間の交流を深め、人材育成や新たな活動の場の提供等を積極的に行い、コミュニティの拠点としての機能を発揮する。また、利用者ニーズに応じて、民間事業者との連携も視野に入れた魅力向上に取り組み、多様な主体との連携・協働を推進する。

## ③花と緑の普及啓発

緑のセンターの温室は、寒冷地としては貴重な植物を鑑賞することができるほか、冬の間もみどりを感じられる空間として重要な施設であるため、今後も各種展示会・講習会を開催し、花と緑の普及啓発を行う。

## ④世界の庭園のあり方の検討

近年、施設の老朽化や利用者数の低下がみられることから、今後の利活用や魅力向上等について慎重に検討を進める。